

— 総 説 —

幼児前期までの時期における 『Paternal Attachment』：概念分析

関森 みゆき¹⁾

抄 録

目的：幼児前期までの子どもと父親との情緒的関係性について、母子間の関係性を示す概念であるアタッチメントに着目し、“Paternal Attachment”の概念の特徴を明らかにし、父親と子どもの関係の様相を表す概念枠組みとしての有効性を検討する。

方法：概念分析の方法は、Rodgersの手法を参考とした。収集した40文献から、Paternal Attachmentの定義、属性、先行要件、帰結を検討した。

結果：属性として、1)情緒的なつながり、2)親子関係の基礎、3)子どもの発達への傾倒、4)認知的社会的プロセス、の4つが抽出された。先行要件は、1)アタッチメントの対象と2)影響要因、の2つが、帰結は1)親密な愛情的な絆を結ぶ対象の決定、2)乳幼児期の社会的情緒的発達課題の達成、3)家族内における父親役割の獲得、の3つが抽出された。

考察：結果から、“Paternal Attachment”は、「父親と子ども相互からの情緒的なつながり、父親にとっての親子関係の基礎、乳幼児期の子どもの発達への傾倒といった特定の対象に対する感情と、その対象に接近し相互作用を形成する認知的社会的プロセスという行動を含む概念である」と定義できた。さらに、永続的であり、子どもの発達段階に応じて変化するという特徴を有しているため、子どもの発達段階に応じた概念の属性・先行要件・帰結を明らかにしていく必要性が示唆された。

キーワード：父親のアタッチメント、幼児前期、概念分析

I. はじめに

日本における出生率は低下の一途をたどり、少子高齢化社会に突入している。きょうだい数も少なく、幼い子どもとの関わりがないまま成人し、我が子の誕生によって初めて子どもと接するという親が増加している。一方で、社会情勢の変化に伴う家族形態やライフスタイルの変化により、父親に対する実質的な育児参加への期待は大きくなってきている。また、家族の存在は子どもの心身の発達や社会性の発達にとって重要であり、子どもの人格形成には親の育て方が影響を与える(Bowlby, 1973)とも言われている。

親子の関係性発達に関する国内外の研究より、親としての自覚や子どもへの愛情は、子どもとの関わりを通じて高まっていくことが明らかにされ、親子の早期接触の重要性が示唆されている(Klaus, et al., 1982; Sullivan,

1999)。しかし、これまでは主たる養育者である母親と子どもに関する研究に主眼がおかれていたため、父親を対象とした研究はまだ少なく、父親と子どもの関係についてはなおざりにされてきている。

このような状況において、子どもの誕生から始まる新たな家族関係構築に向けた看護援助を考えていくためには、母親や他の家族とともに子どもを育てていく父親が、親としての自覚や子どもへの愛情を育み、子どもとの関係をどのように築いているのかを、明らかにすることが必要であると考えられる。

II. 研究目的

本研究の目的は、母親と子どもの情緒的関係性を示す概念であるアタッチメントに着目し、“Paternal Attachment”について、幼児前期までの時期に焦点を当て、概

受付日 2011年3月8日 受理日 2011年5月12日

1) 東京女子医科大学看護学部

念の特徴を明らかにし定義の再構築を試み、父親と子どもの関係の様相を表す概念枠組みとしての有効性について検討することである。

Ⅲ. 研究方法

1. データの収集方法

Attachment は、心理学領域において児童精神分析医の Bowlby (1969) が初めて定義し用いた概念である。したがって、今回は心理学、看護学、医学領域において、近年までの状況を明らかにするため1983-2008年に出版された英語文献から選択した。検索ツールは、「PsycINF」「CINAHL」「MEDLINE」のデータベースを用いた。検索語は「Paternal Attachment」「Father-Infant Attachment」「Infant-Father Attachment」とし、文献における使用範囲はタイトルおよび Abstract 内に限定した。49文献が検索されたが、分析を進める中で、当該概念は『永続』し、『子どもの発達段階に応じて変化する』ことが予測されたため、最終的には研究目的を乳児期から幼児前期の父子に限定し、該当する36文献およびアタッチメントの概念を最初に定義した Bowlby らの著書を加え、40文献を分析対象とした。

2. 概念分析方法

本研究では、Rodgers ら (2000) の提唱した概念分析のアプローチを参考にして分析を行った。Rodgers らの概念分析アプローチとは、文献における用語の活用状況を分析することで、概念の属性、先行要件、帰結を示し、概念の特性を明確にする方法である。また、概念は時代背景や社会の状況、文化、学問領域により、その使われ方が異なると考えられており、その点に着目し、概念の特性を明らかにしようとするものである。

このアプローチを参考に、データ・シートを作成し、文献ごとに概念を構成する属性、概念に先行して生じる先行要件、概念に後続してもたらされる帰結に関する記述を抽出した。抽出した内容について、共通性および相違性によりカテゴリー化し、概念の定義を再構築した。なお、分析の妥当性を確保するために、小児看護のエキスパートと、概念分析の経験者からスーパーバイズを受けた。

Ⅳ. 結果

1. 分析対象文献の概要

40文献のうち、子どもの発達段階別では胎児期5文献、それ以外は出産前後を含め幼児前期（最高20ヵ月）までの子どもと父親に関する縦断的研究であり、新生児期や乳児期に限った文献は見あたらなかった。早産児を

対象とした研究論文が2文献あった。また、ほとんどは初めての子どもを持つ父親を対象としていた。分析の視点では、夫婦関係、母親の就業などの家族背景が父親と子どものアタッチメントに及ぼす影響の探索であった。

2. 分析結果

分析により明らかとなった概念の属性、先行要件、帰結を述べる。なお、文中において、【 】はカテゴリーであり、< >はサブカテゴリーである。

1) 概念の属性

概念の属性として【情緒的なつながり】【親子関係の基礎】【子どもの発達への傾倒】【認知的社会的プロセス】の4つのカテゴリーが抽出された。

(1) 【情緒的なつながり】

この属性は、<父親の子どもへの感情>と<子どもの父親への感情>の2つのサブカテゴリーから構成された。

Condon (1993) は、胎児とのアタッチメントの主観的体験の理論モデルを提案し、評価するための質問紙開発に着手する中で「特別な対象への“情緒的なつながり”あるいは“心理的絆”として広義に定義」し使用していた。他の多くの研究者も、父親と子どもの間に結ばれる【情緒的なつながり】として用いていた。さらに、このつながりは、父親から子どもへの温もりや情愛、子どもとの友好的関係に父親が没頭すること、子どもへの心理的絆 (Sullivan, 1999; Cranley, 1981; Mercer et al., 1988; Ferketich et al., 1995; Owen et al., 1997; Goulet et al., 1998) など、<父親の子どもへの感情>としての側面があった。また、それとは対称的に乳児が示す父親への愛情的な絆や感情的な好み (Belsky, 1996) といった<子どもの父親への感情>としても用いられていた。したがって、【情緒的なつながり】は、<父親の子どもへの感情>という父親から子どもへの方向と、<子どもの父親への感情>という子どもから父親への方向のように、それぞれの対象に向かう感情の方向性を含んでいた。

(2) 【親子関係の基礎】

<家族関係の始まり><親役割への肯定的態度>の2つのサブカテゴリーにより構成された。

<家族関係の始まり>とは、継続していく親子関係の基礎 (Wilson et al., 2000) や、子どもが親である自分たちに属するという確信を得ること (Casteel, 1990) であった。もう一方の<親役割への肯定的態度>とは、“親”とは何かという信念や、親役割に対する肯定的な感情に支えられた養育行動 (Mercer et al., 1990; Casteel, 1990) であった。これら2つのサブカテゴリーによって、親であるという信念に基づき、肯定的な感情を伴った養育行動を行うことで家族としての関係が始まり、築かれていくことを示していた。

(3) 【子どもの発達への傾倒】

アタッチメントを前提とした研究において、多くが

Bowlby の提唱した「他者への接近の探求と維持を助ける」というアタッチメント行動の考え方 (Bowlby, 1969) に基づいていた。子どもが他者との関係を構築する時期であり、そのために起こす行動の基盤を父親が自ら提供しようとすることや、子どもにとって刺激的な遊びをもたらす他者との関係の形成に向けて「他者への接近を探る」(Volling et al., 2002; Pederson et al., 1969) こととして用いていた。また、Mercer ら (1988) は、アタッチメントには父親自身が子どもの発達に関心を寄せることが含まれていると述べており、子どもの発達への傾倒を生み出すこととして用いていた。

(4) 【認知的社会的プロセス】

このカテゴリーでは、＜相互作用による形成＞＜身体的心理的親和行動＞の2つのサブカテゴリーが含まれた。

父親と胎児のアタッチメントについて、理論的活用を研究した論文の中で Mercer ら (1990) は、「アタッチメントの重要な部分は、父親と子どもの相互作用的なフィードバック」であると言及していた。他の研究者も、重要他者との相互作用の成果として捉えたり、関わりの結果としての肯定的フィードバックにより発達するなど、＜相互作用により形成＞されるものと考えていた (Bowlby, 1969; Palvovitz, 1985; Wilson et al., 2000)。

＜身体的心理的親和行動＞では、父子間にだけ独占的に現れる行動であり、具体的には身体的接触と、そのような接触への願望として用いられていた。中でも、父親側の行動としては養育行動を、願望では子どもに対する感情表出を指していた (Lamb, 1977)。また、子ども側の行動では感情の表出、依存心の強い表れや探索活動を示していた (Geiger, 1996)。

2) 概念の先行要件

概念に先行して生じる先行要件として、【アタッチメントの対象】と【影響要因】の2つのカテゴリーが抽出された。

(1) 【アタッチメントの対象】

胎児とその父親のアタッチメントに関する研究において、Paternal Attachment は「胎児への内在的表象による対象の認知」(Condon, 1993) によって始まり、「胎児期から誕生後も継続する親と子という関係によって始まる」こと (Weaver et al., 1983) と考えられていた。

Paternal Attachment には＜父親とその子どもという存在関係＞にある【アタッチメントの対象】が必要十分条件であり、これは先行要件の1つであった。

(2) 【影響要因】

先行要件として、＜父親の特性＞＜子どもの特性＞＜父親と子どもの相互作用＞＜子どもの誕生前後の体験＞＜最適な時と場＞＜家族のもたらす状況＞の6つのサブカテゴリーから構成された【影響要因】が挙げられた。

＜父親の特性＞では、父親自身の感受性や他者との同

調性、人格、信念、自尊心、生育歴、教育レベル (Belsky, 1996; Rosen et al., 1999; Braungart et al., 2001; Garwood, 1998; Mchale, 1997) であった。

＜子どもの特性＞では、子ども本人の運動能力や感情表現など運動精神発達に関する内容や、容姿 (Belsky, 1996; Rosen et al., 1999; Wieser et al., 1984; Sullivan, 1999; Mchale, 1997) であった。

また、父親と子ども両者間の相互作用の頻度やその際の反応の内容、喜び体験の有無、誕生早期の接触の有無など (Mercer et al., 1988; Lundy, 2003; Belsky, 1996) が、＜父親と子どもの相互作用＞として Paternal Attachment に関わるものとされていた。

その他には、子どもが誕生する時の父親のストレス体験や誕生直後の子どもの状態 (Pederson et al., 1969; Goulet et al., 1998)、特に早産児の場合には子どもの生命的危機を強い恐怖として感じる事 (Sullivan, 1999) など、父親が＜子どもの誕生前後に体験＞することであった。

また、Paternal Attachment を形成する環境として、妊娠中の妻からの協力やサポートネットワークの有無とそのサポートの質、子どもの誕生前や誕生直後が絆形成に最適な時である (Weaver et al., 1983; Sullivan, 1999; Rubenstein, 1982) と考えており、＜最適な時と場＞も影響要因とされていた。

＜家族のもたらす状況＞では、家庭内での相互作用の時間やライフスタイル、夫婦関係、結婚生活への満足、仕事と家庭のバランス等であった。これらは、母親と子どもとのアタッチメントと比較して Paternal Attachment には影響を与えやすいもの、と考えられていた (Braungart et al., 1999a; 1999b; Owen et al., 1984; Pavill, 2002; Belsky, 1996)。

以上、6つの【影響要因】は、“Paternal Attachment”の属性の質を決定する因子であり、先行要件と捉えられた。

3) 概念の帰結

概念の帰結は、【親密な愛情的な絆を結ぶ対象の決定】【乳幼児期の社会的情緒的発達課題の達成】【家族内における父親役割の獲得】の3つのカテゴリーから捉えられた。

(1) 【親密な愛情的な絆を結ぶ対象の決定】

この帰結は、＜アタッチメント対象への愛情＞＜アタッチメント対象の獲得＞の2つのサブカテゴリーから構成された。

アタッチメントによって、「効果的な協同的文脈の確立」が得られるとした Bowlby (1973) の論文を元に、アタッチメント対象への焦点化の可能性や子どもの健康と幸福の本質など (Bus et al., 1997; Sullivan, 1999)、父親からの＜アタッチメント対象への愛情＞を示していた。

また、子ども側では特定の人をアタッチメント対象

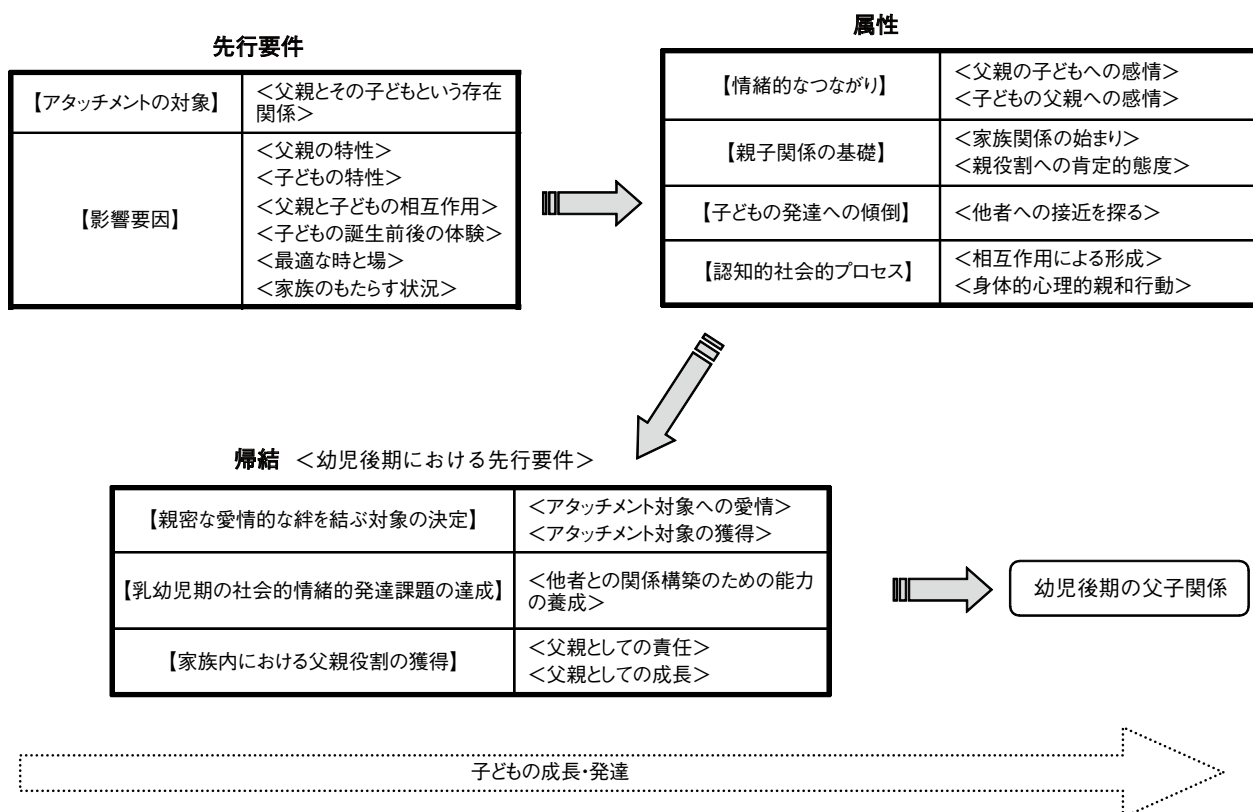


図1 幼児前期までの時期における“Paternal Attachment”

と決め、より愛情を持つ関係になる（Lamb, 1977; Bus et al., 1997）など、父親と乳幼児の両者にとっての＜アタッチメント対象の獲得＞と捉え、父親と子どもそれぞれが、親密で愛情的な絆を結ぶ対象を決定することであった。

（２）【乳幼児期の社会的情緒的発達課題の達成】

これは、乳幼児期に特徴的な発達課題である＜他者との関係構築のための能力の養成＞という父親と子どもそれぞれの帰結であった。

父親にとっては、子どもが自分以外の人との関係を築いていくことができるように環境を整え、好奇心を促すなどの働きかけにより子どもの社会的・情緒的発達に対する貢献をすることであった（Lamb et al., 1982; Lundy, 2003; Mavis et al., 1986）。

子どもにとっては、父親との相互作用をさらに発展させ、肯定的な情緒表現の方法を獲得し、その能力を活用して馴染みのない大人との社交性を培うなど、父親以外の人との関係形成能力を養うこと（Lamb et al., 1982; Volling et al., 2002; Bus et al., 1997; Mavis et al., 1986）であった。

（３）【家庭内における父親役割の獲得】

これは、父親にとっての帰結であり、＜父親としての責任＞と＜父親としての成長＞の２つのサブカテゴリーから構成された。

＜父親としての責任＞は、子どもへの肯定的感情を基盤とした養育行動や家族内における父親の役割を継続し、

父親としての責任を果たすことであった（Wilson et al., 2000）。

もう一方の＜父親としての成長＞は、家族内において父親としての責任を自覚することにより、父親であるという自己概念が高まること（Wieser et al., 1984; Ferketich et al., 1995）であった。

V. 考 察

1. 概念の定義の再構築

分析結果より、概念の定義を再構築すると、胎児期も含め乳幼児期の“Paternal Attachment”は、「＜父親の子どもへの感情＞と＜子どもの父親への感情＞の双方向からの【情緒的なつながり】と、父親が感じる＜家族関係の始まり＞や＜親役割への肯定的態度＞によって築かれ始める【親子関係の基礎】、＜他者への接近を探る＞ような【子どもの発達への傾倒】といった感情が、父親と子どもの＜相互作用により形成＞されることであり、＜身体的心理的親和行動＞を起こす【認知的社会的プロセス】という特性を持つ」と考えられた。

概念の属性として抽出された４つのカテゴリーのうち、【情緒的なつながり】と【親子関係の基礎】、【子どもの発達への傾倒】は父子の感情面を表し、【認知的社会的プロセス】は行動の面を表しており、感情と行動の両面から使用されている概念であると考えられる。これ

は、対象とした文献の著者の多くが、当該概念の提唱者である Bowlby の考え方を基盤としており、彼の考え方の基本であったアタッチメント対象に対する情緒的結びつきという感情の面と、情緒的な結びつきのための行動すなわちアタッチメント行動を介して、父親と子どもの相互作用によって形成されるプロセスという行動の面の、2つの側面をアタッチメントとして用い、捉えていたためと考える。

また、“Paternal Attachment”は、＜父親とその子どもという存在関係＞にある【アタッチメントの対象】をお互いが認識することによって初めて成立するものであり、さらには各々＜特性＞を持った父子による＜父親と子どもの相互作用＞が必要であり、その相互作用の過程には＜子どもの誕生前後の体験＞＜最適な時と場＞＜家族のもたらす状況＞など【影響要因】が、先行要件として考えられた。

概念の帰結では、乳幼児期には＜アタッチメント対象への愛情＞と＜アタッチメント対象の獲得＞という【親密な愛情的な絆を結ぶ対象の決定】が父親と子どもの両者によってなされる。さらには、父親が子どもの社会性の発達や情緒的な発達に貢献することにより、特に乳児は情緒的表現方法やある特定の対象への注目を始め、自分にとって馴染みのない大人とも交流を始めていくといった＜他者との関係構築のための能力の養成＞など【乳幼児期の社会的情緒的発達課題の達成】に繋がっていく。また、父親にとっては＜父親としての責任＞を考え、＜父親としての成長＞を実感し【家族内における父親役割の獲得】に至るという3つの側面から捉えられると考えられた。

2. 乳幼児と父親の情緒的關係性に関する概念の活用可能性

Paternal Attachment という概念は、母子関係を示すアタッチメントのように日本語に訳され用いられてはいない。すべて外国文献によって分析した概念の定義が、日本の父親と子どもの関係において活用可能かどうかについて検討する。

山本（2004）は、父親にも子どもをかわいいと感ずる感情は生得的に備わっており、子どもとの関係を築く上で乳幼児期から愛情の絆を培っておくことの必要性を述べている。これは、今回の分析結果である概念の属性のうち【情緒的なつながり】を持つこと、帰結である【親密な愛情的な絆を結ぶ対象の決定】の妥当性を裏付けるものと考えられる。また、父親としての意識について川井（1992）は、母親が妊娠による身体的変化や胎動知覚を契機に「生物—心理的な関係を基盤に発達すると考えられているのに対し、父親は母親を通じた社会—心理的な関係を基盤に発生し、誕生後の子どもとの関係によって発達する」と述べている。久坂ら（1999）は、子どもの誕生によって変化する家族システムの中で、親として

の意識は子どもとの関わりを通じて形成されとし、性役割感や子どもへのイメージなどパーソナリティの側面から調査した結果を、父親の自己成長感、子どもへの関心、制約感の3側面から説明できるとしている。このように、日本における父親と子どもの関係性も相互作用によって培われ、変化していくものであり、そこには妻との関係を含めた家族の有り様や子どもの状態、父親の特性など、まさに先行要件として抽出された【影響要因】や属性の【親子関係の基礎】で説明が可能な内容といえる。したがって、父親と子どもの情緒的な関係性も、父親の子どもへの愛情やかわいさを感じる感情の発達によって築かれていき、これらは“Paternal Attachment”の側面から捉えることが可能であると考えられる。

また、分析過程を通じて得られた概念の特徴として、“Paternal Attachment”は『永続』し、『子どもの発達段階に応じて変化する』ことが考えられた。したがって、今回の分析において対象とした胎児期を含めた幼児前期までの時期における当該概念の帰結は、そのまま次の発達段階（幼児期後期）における先行要件となり得ると考えられ、その後の父子関係に影響を与えていくことが容易に予測できる。“Paternal Attachment”は、父親と子どもの相互作用の継続によって、その後に循環しながら変化していく概念と捉えることができる。以上から、この概念の活用にあたっては、子どもの発達段階に応じた概念の属性、先行要件、帰結を明らかにしていく必要性が示唆された。

VI. 結論

父親と乳幼児の情緒的關係性の様相を表す概念枠組みの可能性について検討することを目的に、幼児前期までの時期を対象とした“Paternal Attachment”について Rodgers の手法を用いて概念分析を行った。結果、“Paternal Attachment”は「父親と子ども相互からの【情緒的なつながり】と、父親にとっての【親子関係の基礎】、【子どもの発達への傾倒】といった特定の対象に対する感情と、その対象に接近し相互作用を形成する【認知的社会的プロセス】という行動の面を含む特性をもつ」と再定義でき、父親と子どもの関係性の説明が可能であると考えられた。さらに、永続的であり、子どもの発達段階に応じて変化するという特徴を有した循環型の概念であることから、概念の活用の際には子どもの発達段階に応じた概念の属性、先行要件、帰結を明らかにしていく必要性が示唆された。

最後に、本研究過程においてご指導をいただきました聖路加看護大学及川郁子教授、田代順子教授に感謝を申し上げます。

引用文献

- Belsky J (1996). Parent, infant, and social-contextual antecedents of father-son attachment security. *Developmental-Psychology*. Vol 32(5). 905-913.
- Bowlby J (1969). 黒田実郎訳 (1991). *母子関係の理論 I 愛着行動*. 東京：岩崎学術出版社.
- Bowlby J (1973). 黒田実郎監訳 (1991). *母子関係の理論 II 分離不安*. 東京：岩崎学術出版社.
- Braungart-Rieker JM, Garwood MM, Powers BP et al. (2001). Parental sensitivity, Infant affect, and affect regulation: Predictors of later attachment. *Child Development*. 72(1). 252-270.
- Braungart R Julia, Courtney S, Garwood Molly M. (1999a). Mother-and father-infant attachment: Families in context. *Journal of Family Psychology*. Vol 13(4). 535-553.
- Braungart R Julia, Karrass J (1999b). Parent protection in context. *Journal of Family Psychology*. Vol 13(4). 488-491.
- Bus AG, Belsky J, van-IJzendoorn et al. (1997). Attachment and bookreading patterns: A study of mothers, fathers and their toddlers. *Early Childhood Research Quarterly*. Vol 12(1). 81-98.
- Casteel JK (1990). Affects and cognitions of mothers and fathers of preterm infants. *Maternal Child Nursing Journal*. 19(3). 211-220.
- Condon JT (1993). The assessment of antenatal emotional attachment: Development of a questionnaire instrument. *British Journal of Medical Psychology*. 66(Pt 2). 167-183.
- Cranley MS (1981). Development of a tool for the measurement of maternal attachment during pregnancy. *Nursing Research*. 30. 281-284.
- Ferketich SL, Mercer RT (1995). Paternal-infant attachment of experienced and inexperienced fathers during infancy. *Nursing-Research*. 44(1). 31-37(43 ref).
- Garwood MM (1998). Parental sensitivity, parenting beliefs, and child temperament: Modeling effects on mother-and father-infant attachment. *Dissertation Abstracts International: Section B. The Sciences and Engineering*. Vol 59(6-B). 3092.
- Geiger B (1996). *Fathers as primary caregivers*. US. Greenwood Publishing Groups.
- Goulet C, Bell L, tribble DS, et al. (1998). A concept analysis of parent-infant attachment. *Journal of Advanced Nursing*. 28(5). 1071-1081.
- 川井 尚 (1992). 育児における父親の役割. *小児保健研究*. 51(6). 671-680.
- Klaus MH, Kennell JM (1982). 竹内徹他訳 (1985). *親と子のきずな*. 東京：医学書院.
- 久坂ヤス子他 (1999). 親となる意識の形成. *愛媛県立医療技術短期大学紀要*. 12号. 37-43.
- Lamb ME (1977). Father-Infant and Mother-Infant Interaction in the First Year of Life. *Child Development*. 48. 167-181.
- Lamb ME, Hwang CP, Frodi AM, et al. (1982). Security of mother-and father-infant attachment and its relation to sociability with strangers in traditional and nontraditional Swedish families. *Infant Behavior and Development*. Vol 5(4). 355-367.
- Lundy BL (2003). Father-and mother-infant face-to-face interactions: Differences in mind-related comments and infant attachment?. *Infant Behavior and Development*. Vol 26(2). 200-212.
- Mavis Hetherington, Ross D Parke (1986). Multiple attachments: Fathers and peers as attachment figures. *Child psychology; a contemporary viewpoint 3rd edition*. 253-256.
- Mchale JL (1997). Infant-father attachment: Infant and father antecedents. *Dissertation Abstracts International: Section B. The Sciences and Engineering*. Vol 57(8-B). 5365.
- Mercer RT, Ferketich S, May K, et al. (1988). Further exploration of maternal and paternal fetal attachment. *Research Nursing Health*. 11(2). 83-95.
- Mercer RT, Sandra L Ferketich (1990). Predictors of parental attachment during early parenthood. *Journal of Advanced Nursing*. 15. 268-280.
- Owen MT, Easterbrooks MA, Chase-Lansdale L, et al. (1984). The relation between maternal employment status and the stability of attachments to mother and to father. *Child Development*. 55(5). 1894-1901.
- Owen MT, Cox MJ (1997). Marital conflict and the development of infant-parent attachment relationships. *Journal of Family Psychology*. Vol 11(2). 152-164.
- Palvovitz R (1985). Father's Birth Attendance, Early Contact, and Extended Contact with Their Newborns: A Critical Review. *Child Development*. 56. 392-406.
- Pavill BC (2002). Father-infant attachment in breastfed versus bottlefed infants. *Dissertation Abstracts International: Section B. The Sciences and Engineering*. Vol 63(6-B). 3045.
- Pederson FA, Robson KS (1969). Father participation in infancy. *American Journal of*

- Orthoschiatry*. 39. 466-472.
- Rodgers BL, Knafl KA (2000). *Concept development in nursing: foundations, techniques, and applications 2nd*. Philadelphia. Saunders.
- Rosen, K. S., Burke, P. B. (1999). Multiple attachment relationships within families; Mothers and fathers with two young children. *Development Psychology*. 29. 358-367.
- Rubenstein EM (1982). A comparison of the maternal-child and paternal-child attachment processes and their potential interrelationships. *Dissertation Abstracts International*. Vol 42(12-B, Pt 1). 4737.
- Sullivan JR (1999). Development of father-infant attachment in fathers of preterm infants. *Neonatal Network*. 18(7). 33-39.
- Volling BL, McElwain NL, Notaro PC, et al. (2002). Parents' emotional availability and infant emotional competence: predictors of parent-infant attachment and emerging self-regulation. *Journal of Family Psychology*. 16(4). 447-465.
- Weaver Ruth H, Cranley Mecca S (1983). An exploration of paternal-fetal attachment behavior. *Nursing Research*. Vol 32(2). 68-72.
- Wieser MA, Castiglia PT (1984). Assessing early father-infant attachment. *American Journal of Maternal Child Nursing*. 9(2). 104-106.
- Wilson ME, White MA, Cobb B, et al. (2000). Family dynamics, parental-fetal attachment and infant temperament. *Journal of Advanced Nursing*. 31(1). 204-210.
- 山本正和 (2004). 家族の中の父親を考える. *教育と医学*. 52(6). 24-32.

“Paternal Attachment” in Infancy : A Concept Analysis

Miyuki Sekimori ¹⁾

1) Tokyo Women's Medical University School of Nursing

[Objective] : In an investigation of the emotional relationship between an infant and the father in infancy, researcher focused on attachment, which is a concept that is applied to the mother-child relationship. The present study aimed to reveal characteristics of the concept of “paternal attachment” in order to assess its validity as a conceptual framework for describing aspects of the relationship between a child and the father.

[Method] : The concept analysis was performed in accordance with Rodgers' method. Definitions, attributes, antecedents, and consequences regarding paternal attachment were examined in 40 literature documents.

[Results] : The following four attributes were extracted : 1) emotional bond, 2) foundation of the parent and child relationship, 3) commitment to child's development, and 4) cognitive and social process. The following two antecedents were extracted : 1) subject of attachment and 2) influence factor, while the following three consequences were extracted : 1) determination of a subject to develop a close affection, 2) achievement of social and emotional developmental goals in early childhood, and 3) acquisition of a role in the family.

[Conclusion] : The results defined “paternal attachment” as a “concept encompassing both the emotional aspects towards a specific subject, which are expressed by a mutual emotional bond between a child and the father, the foundation of the parent and child relationship perceived by the father, and commitment to infant development, and a behavioral aspect, which is represented by a cognitive and social process involving development of an interaction by approaching the subject.” The results further described “paternal attachment” as a permanent, cyclical concept characterized by changes in response to the child's developmental stage. The necessity for clarifying the attribute, antecedents, and consequences of the concept according to child's developmental stage was suggested.

Keywords : paternal attachment, infancy, concept analysis